

平成26年行政事業レビュー
「**旅券関連業務**」
説明資料

平成26年6月
外務省領事局
旅券課

旅券関連業務の概要

1. 旅券の発給を通じた国民の海外渡航の権利の保障。
2. 旅券の国際的な信頼性の維持（不正取得・使用の防止，偽変造防止 等）。

3つの目的と相互のトレード・オフ関係

- 手続の簡素化・発給期間の短縮
- 旅券手数料の値下げ
- 申請・交付場所の増加

国民の利便性・
行政サービスの
向上

- 旅券の偽変造対策
- なりすまし等の不正取得防止
- 旅券作成機・システムの高度化

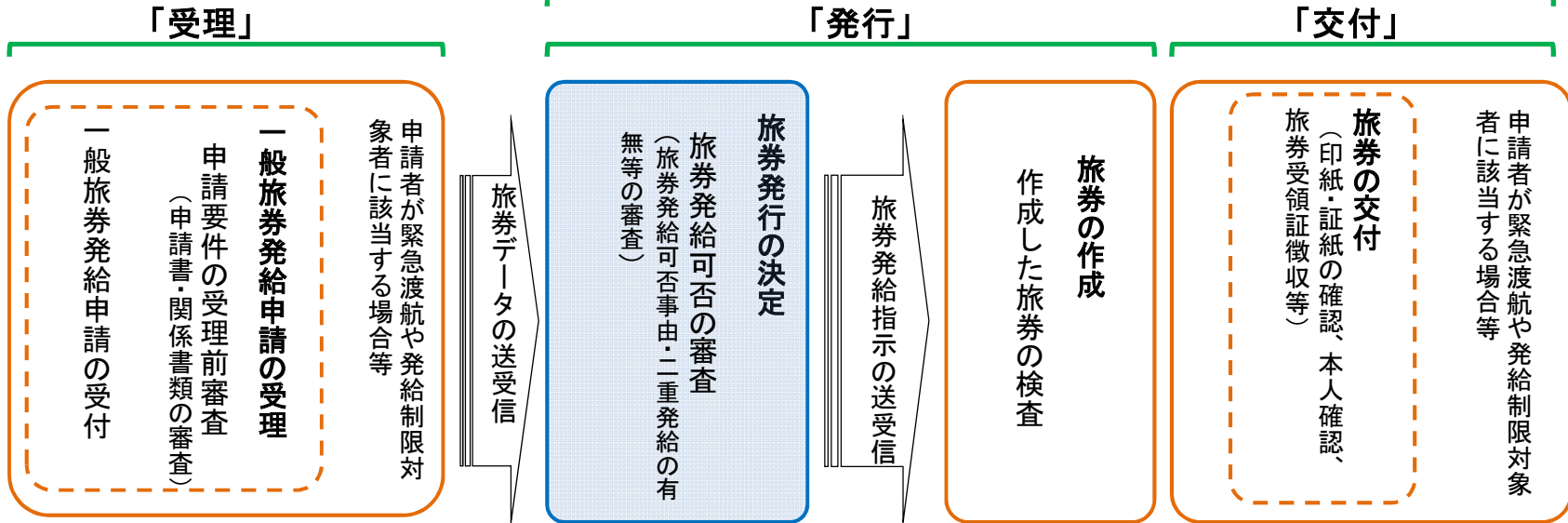
旅券の国際的
信頼性の維持・不正防止

事務の効率化・
行政コストの削減

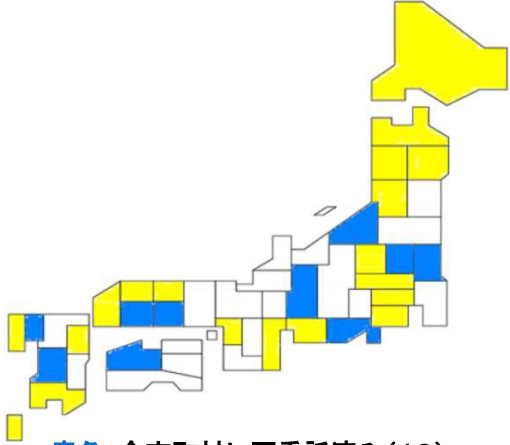
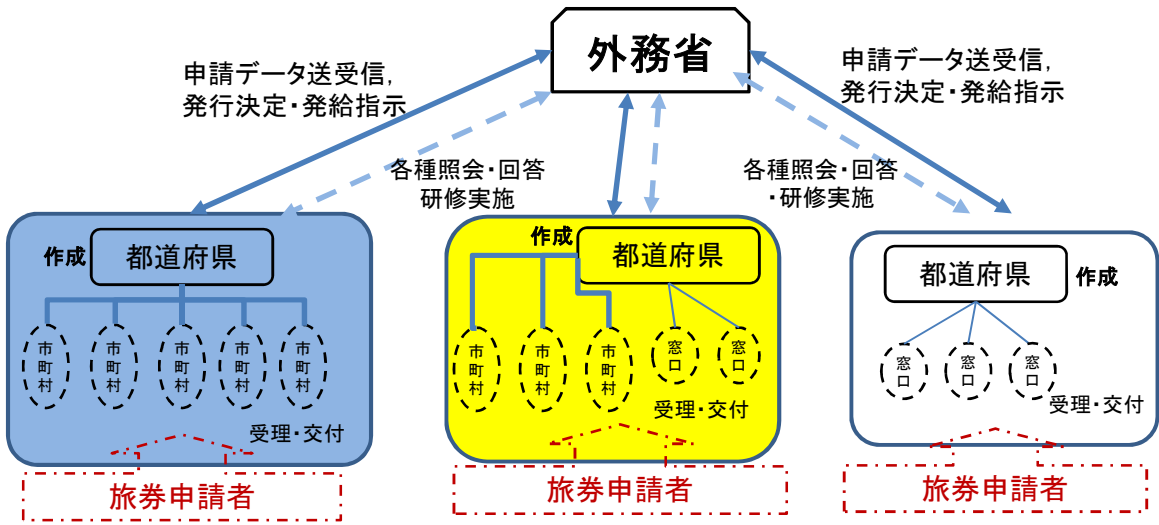
- 旅券発給管理システムの統合
- 在外公館における旅券作成機の配備見直し

国内における旅券発給業務

一般旅券発給申請から交付までの流れ(約6日間) 「発給」



 : 外務大臣の事務
 : 都道府県知事の事務
 : 市町村に再委託されている場合の市町村の事務



海外における旅券発給業務

在外公館における旅券作成機の配備基準

- 過去5年間の一般旅券(5年・10年)の平均発行数が50冊以上。
- 直近の在留邦人数調査における管内在留邦人数が500人以上。
- 公館所在国・地域特有の特殊・個別事情があること。

→ 新型作成機の配備を34公館で廃止(185公館→151公館)。

作成機の配備が無くなった公館

アフリカ (10公館)

ウガンダ
エチオピア
ガーナ
カメルーン
ザンビア
ジンバブエ
セネガル
タンザニア
チュニジア
ナイジェリア

中東 (7公館)

オマーン
クウェート
ジッダ
シリア
トルコ
バーレーン
レバノン

欧州 (11公館)

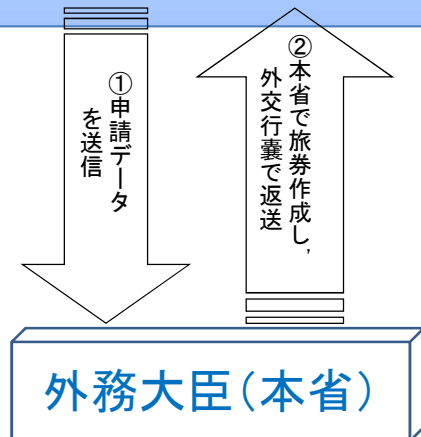
ウズベキスタン
カザフスタン
クロアチア
ラスパルマス
スロバキア
セルビア
ブルガリア
リトアニア
サンクトペテルブルグ
ハバロフスク
ユジノサハリンスク

アジア (5公館)

コルカタ
マカッサル
メダン
済州
ブルネイ

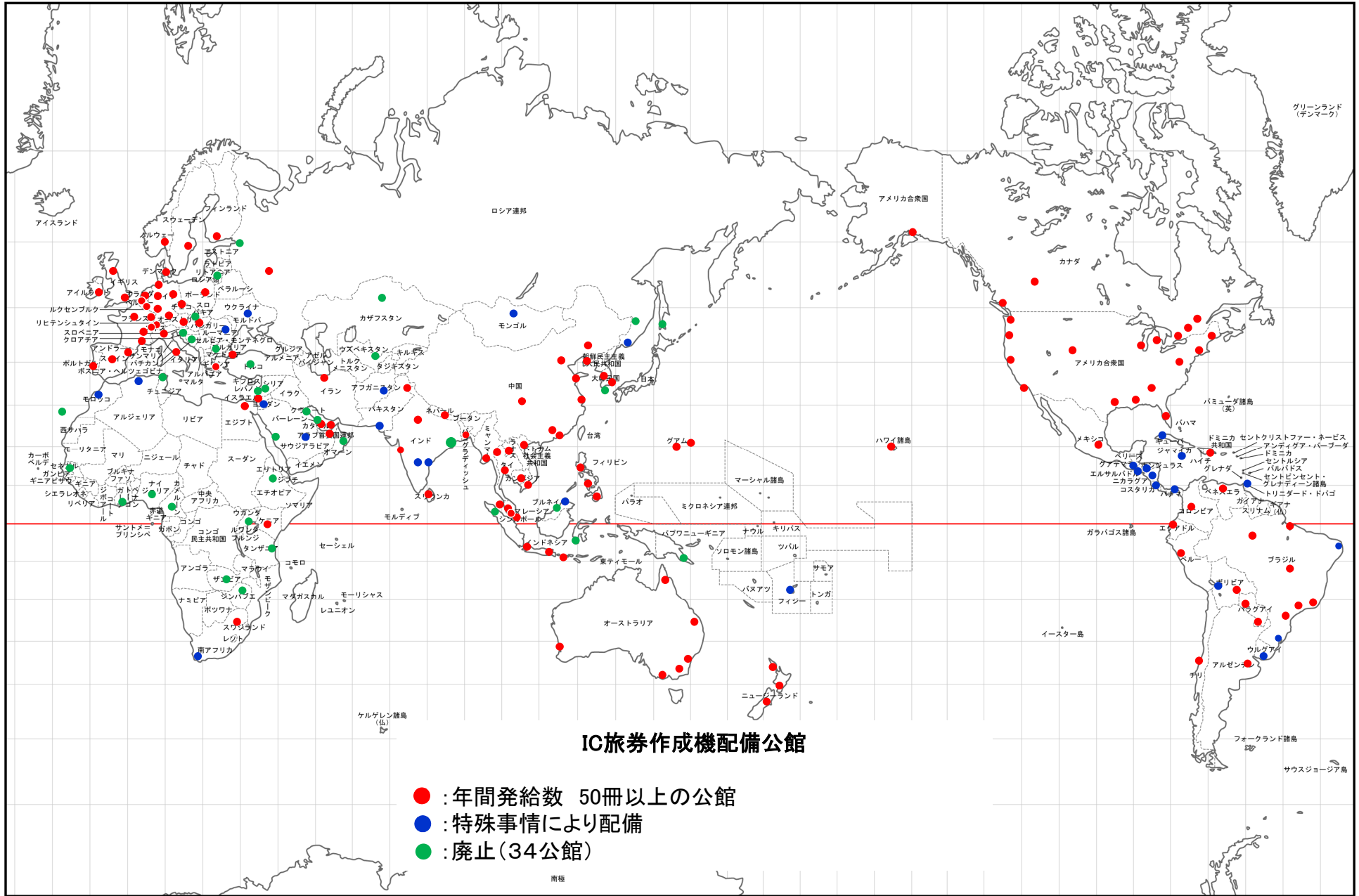
大洋州 (1公館)

パプアニューギニア



本省代替作成

- 申請受理から旅券到着まで概ね10日乃至2週間が必要。
- 緊急発給への対応は困難。



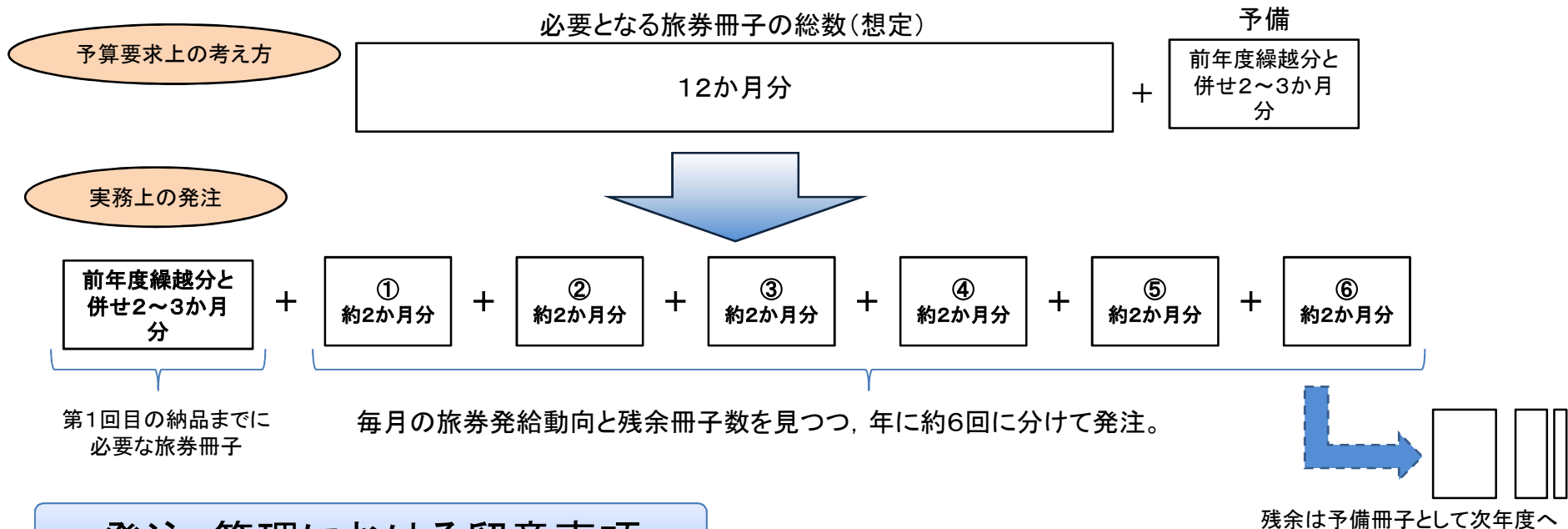
IC旅券作成機配備公館

- : 年間発給数 50冊以上の公館
- : 特殊事情により配備
- : 廃止(34公館)

南極

旅券の発注・管理

- ▶ 過去3か年平均に基づき、次年度の旅券冊子の総数を想定。
- ▶ 国立印刷局への発注から冊子の納品まで2～3か月を要するので、2～3か月分を予備。



発注・管理における留意事項

- **旅券作成事務所のうち1か所たりとも冊子不足・旅券発給不能となることは決して許されない。**
→ 国民からの非難に留まらず、申請者の出国予定日までに旅券発給できなければ、損害賠償請求の可能性も。
- **旅券発給動向予測の困難さ**(景気や国際情勢等に過敏に影響)
→ 海外出国者数と発給動向に連関性なし。景気や為替動向、原油価格、近隣諸国との関係、人気観光地の出現や海外旅行ブームの再燃、海外旅行者の世代別動向等の様々な不確定要因に左右される傾向大。
- **旅券冊子製造上の制約**
→ 国立印刷局における生産ラインは1本のみ。旅券用のICチップ調達には少なくとも5か月が必要で、冊子の発注から納品までに2～3か月必要であるほか、国内60か事務所と在外151公館への冊子配送期間も踏まえ、発給増への備えが必要。

一般旅券の発給動向

- 一般旅券の発給見込みの予測は極めて困難。
- 年によっては前年比で数十万冊の差が発生。
- 他方、冊子の供給体制も見据え、冊子不足に陥らないよう予備冊子を常備する必要あり。

	年	発給数（国内合計）	対前年比
平成17年	2005	3,612,473	
平成18年	2006	4,302,191	19.1%
平成19年	2007	4,209,097	-2.2%
平成20年	2008	3,801,384	-9.7%
平成21年	2009	4,015,470	5.6%
平成22年	2010	4,185,080	4.2%
平成23年	2011	3,961,382	-5.3%
平成24年	2012	3,924,008	-0.9%
平成25年	2013	3,296,810	-16.0%

国内における一般旅券発給数の暦年推移

